

社会保障審議会児童部会 第6回遊びのプログラム等に関する専門委員会 平成28年5月27日	資料 1
--	---------

第5回遊びのプログラム等に関する専門委員会主な指摘事項等

○日時：平成28年3月28日（月）10：00～12：00

○場所：厚生労働省共用第9会議室

【今後の進め方について】

- モデル児童館の専門委員の派遣について、各委員が一生懸命に取り組む必要がある。
- 委員がモデル児童館に対し、委員会としてのしっかりとしたセッションができるよう、委員会としての事前の調整みたいなものが必要になってくると思われる。
- 児童館ガイドラインの見直しについては、ワーキングという形で意見を積み上げるような時間が1回ぐらいあってもいい。

【遊びのプログラムの改定、開発に向けた検討（モデル児童館の選定の考え方等）について】

- 児童館が対応可能な新たな地域課題も活動プログラムの候補である。
- モデル事業の実施後、全国への波及効果を狙うための展開もいろいろ考えた方が良い。
- プログラムの実施箇所数について、必ずしも数にこだわらなくても、箇所数が少なくなってもやむを得ないと考えるのが良い。
- 応募は法人とか株式会社に偏ってしまうかもしれないが、児童館は公設公営が多い実態を考慮する必要があるのではないか。
- 選定の考え方について、「スポーツ団体や障害児支援団体などが主体でやっているプログラム」ということになると、場所貸しをしているところのスポーツ団体が手を挙げて、いかにも児童館と連携しているようなところも出てくるかもしれないので、書き方について児童館を強調する文言に変える。
- 団体について、児童館はそもそも地域組織活動、例えば母親クラブとか、そういったところの連携があるのでそのあたりも加えた方が良い。
- 赤ちゃんと遊ぶとか赤ちゃんの育ちを見られるような経験が出来るようなことが書かれると良い。
- 「発達障害など子どもの特性を踏まえた取組を推進する」という点について、とても重要な課題であるので、「特別ではない」というノーマライゼーションを感じられるような取り組みという点を補足して頂きたい。
- 国際交流のような取組が児童館の中で行われていくというのもユニークな取

り組みの一つと考える。

○児童館で活動の記録をDVDで撮り続けるのは難しい、外部委託になってしまうと思う。まずは、しっかりとした報告書をまとめるということが大事である。